

名詞の前で意味が変わる「フランス語の形容詞」



今回はフランス語の形容詞についてお話ししたいと思います。フランス語学習の初期の段階で習うのに、けっこう厄介なのが形容詞。だって、修飾する名詞の性数に一致させなければならないんですもの！特に男性形と女性形で大きく異なるものは数が少ないとはいえ、丸暗記しなければならないので大変です。

位置で意味が変わる フランス語形容詞

そして、フランス語の形容詞はその「位置」にも気をつける必要があります。名詞にくっつけて修飾する際、英語では形容詞を名詞の前に置きますが、フランス語では原則として名詞の後ろに置くのが決まりです。

ところが形容詞の中に、**名詞の前に置いても良いもの**があります！これらも少数派とはいえ、少しずつ覚えていかなければならないのでまた厄介。よく使われる物が多いんですけど。例えば bon/mauvais, grand/petit, long/court, vieux/jeune, beau

etc. . . . 書き出してみると対義語が目立ちますね。

こういう「名詞の前にも置ける」タイプの形容詞は上にもいくつか挙げたように、最大2音節（有音の母音が2つ）までの短いものがほとんど、という特徴があります。まあ中には「une excellente idée」（excellente = 3音節）のような例外もありますが。

さらに注意すべきなのは、これらの形容詞の中に「**名詞の前にくると意味が変わる**」ものが存在すること。いくつか代表的な例をご紹介しますね。

名詞の前に置くと意味が変わる形容詞

Un homme **grand** = 背の高い人

Un **grand** homme = 偉人

形容詞「grand」が名詞の前に来ると、「偉大な」という意味を持つんですね～。他にも un grand réalisateur（偉大な映画監督）、une grande idée（高尚な思想）などなど。ちなみに「Un grand homme」の「d」はリエゾンの際に「t」の音で発音され「アン・グラン・トム」となるのでご注意ください。

ここでいきなり余談ですが、「Un homme grand」と「Un grand homme」、両方に当てはまる世界的に有名なフランス人といえば、この人が真っ先に浮かびました。それは

Charles de Gaulle（シャルル・ド・ゴール）

そう、冒頭の写真の方です。ナチスドイツ占領下のフランスレジスタンス運動の指導者！第五共和制の初代大統領も務めた、まさにフランスの偉人です。この方、なんと身長が2m近くもあったそうで・・・



ほんとうに Un grand homme grand（背が高い偉人）ですね。

話を本題に戻しまして「名詞の前に来ると意味が変わる形容詞」、他にも2つほど日常生活でよく耳にするものを挙げておきますね。

Un ami **vieux** = お年寄りの友人

Un **vieil** ami = 旧友

上を使うことはあまり無いと思いますが（苦笑）、形容詞「vieux」は名詞の前に来ると「古くからの」という意味に変わることがあります。「旧友」に関しては英語でも「old friend」と同じ言い方をするみたいですね。

そして最後、いつ聞いてもその由来が気になってしまう・・・

Mon beau-père / Ma belle-mère = 私の義理の父 / 母

形容詞「beau」は親族関係の名詞の前では「義理の（相手方の）」という意味に変わってしまいます。なぜ「美しい 義理」に！？うーん、相手方の親族に気に入られようとして「beau」をつけて褒めたのが始まり？真相が気になるところです、由来をご存知の方はぜひお知らせください。

あとがき

さて長くなりましたが、改めてフランス語の形容詞は奥が深いと感じますね～。語尾変化に位置に、ややこしい規則が多くて大変ですが、ここをマスターすればフランス人に感心されるフランススピーカーになること間違い無し！お互いに勉強頑張りましょう。

執筆 Miwa

オンラインフランス語学校

ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

